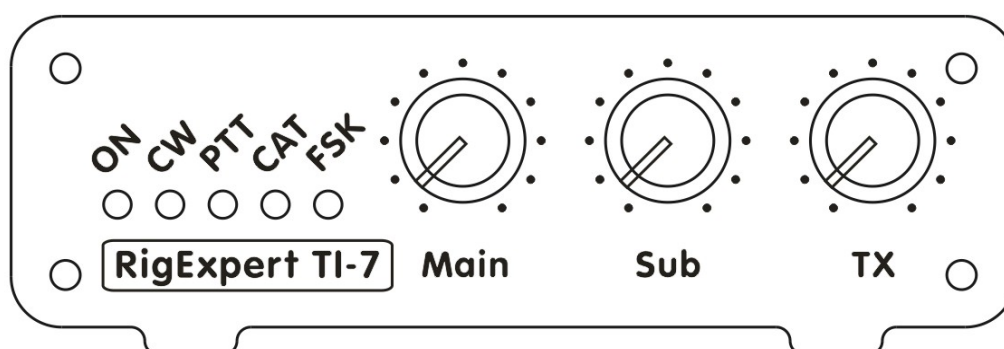


デジモード・ソフト設定例

RigExpert[®] TI-7

USB トランシーバインターフェース



取説もご熟読の上 TI-7 をご活用ください。

日本語版作成 : JA1SCW 日下 寛

第1版 2014.07.20

目 次

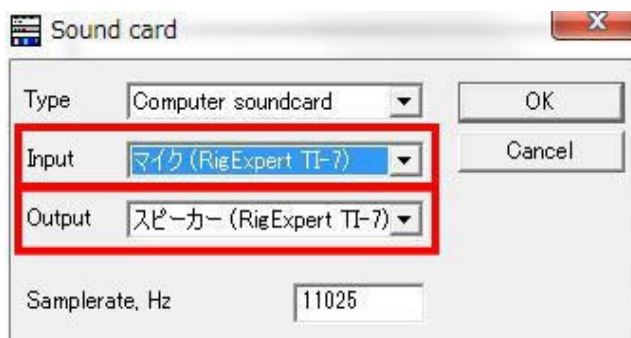
1. DigiPan.....	3
1.1 オーディオ設定.....	3
1.2 PTT 設定.....	3
2. MixW.....	4
2.1 オーディオ設定.....	4
2.2 CAT 設定.....	4
2.3 PTT 設定.....	5
2.4 FSK/AFSK 設定.....	6
2.4.1 FSK モード.....	6
2.4.2 AFSK モード.....	7
3. MMTTY.....	9
3.1 オーディオ設定.....	9
3.2 PTT 設定.....	9
3.3 FSK/AFSK 設定.....	10
3.3.1 FSK モード.....	10
3.3.2 AFSK モード.....	11
4. MMSSTV.....	12
4.1 オーディオ設定.....	12
4.2 PTT 設定.....	13
5. MMVARI.....	14
5.1 オーディオ設定.....	14
5.2 PTT 設定.....	14
6. Fldigi.....	15
6.1 オーディオ設定.....	15
6.2 PTT 設定.....	16
6.3 CAT 設定.....	17
7. Ham Radio Deluxe.....	18
7.1 CAT 設定.....	18
7.2 オーディオ設定.....	19
7.3 PTT 設定.....	19
7.4 CW 設定.....	19
7.5 FSK/AFSK 設定.....	20
7.5.1 FSK モード.....	20
7.5.2 AFSK モード.....	21
8. WinTest.....	21
8.1 CAT 設定.....	21
8.2 PTT/CW 設定.....	22

1. DigiPan

(DigiPan version 2.0)

1.1 オーディオ設定

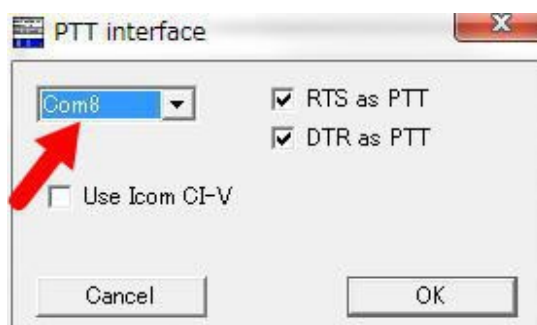
Configure ⇒ Sound card メニューより



Input に マイク(RigExpert TI-7) を、Output にスピーカー(RigExpert TI-7) を 選択し OK ボタンを押します。 注意: マイクおよびスピーカの命名は Windows が行いますので、PC によっては「デジタル オーディオ インターフ」と表示されます。これを「マイク」に変えるには画面右下のスピーカアイコンを右クリック ⇒ 録音デバイス ⇒ RigExpert TI-7 の名称を「マイク」に変える ⇒ 適用・OK

1.2 PTT 設定

Configure ⇒ Serial port メニューより PTT 出力を設定します。



PTT 出力に使うシリアル・ポート番号を選択し(この例では COM8)、OK ボタンで設定を確定します。

リグエキスパート・ナビゲータを起動し、ステータスタブで PTT 出力の設定が正しく行われているのを確認すると安心です。



2. MixW (MixW version 2.20)

2.1 オーディオ設定

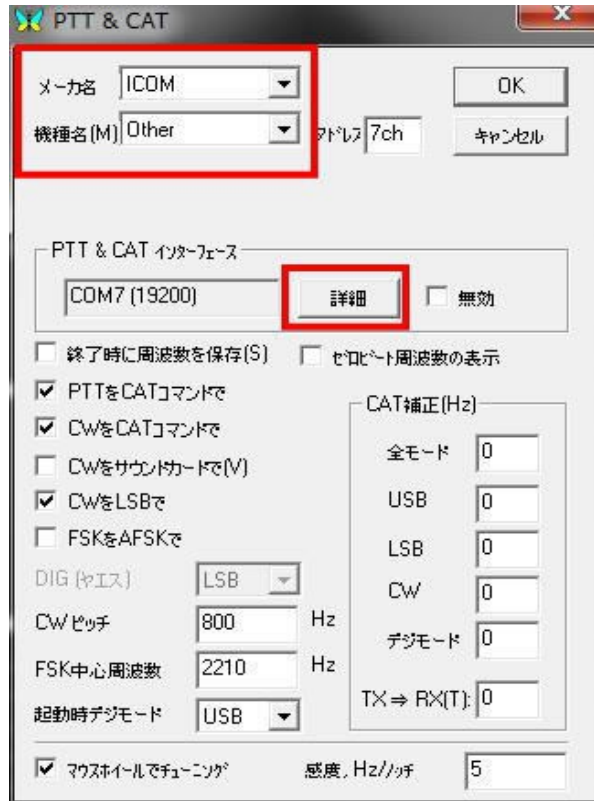
インストール・起動し個人データを入力後、メニューの動作環境設定 ⇒ サウンドカード設定 を開くと次の画面になります。



この画面で入力デバイスとしてマイク (RigExpert TI-7) を出力デバイスとしてスピーカ (RigExpert TI-7)をそれぞれ選択し、OK ボタンで設定を保存する。デバイスの名称違いは1頁の注意を参照のこと。

2.2 CAT 設定

動作環境設定 ⇒CAT/PTT 設定 の画面より



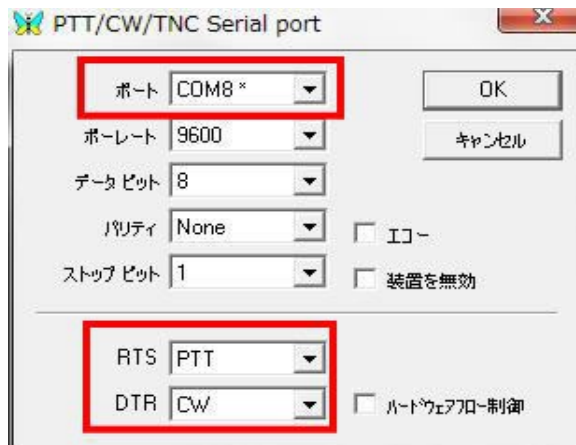
お使いの TRX 情報を入力し、詳細ボタンを押すと次のシリアルポート画面が現れます。



この冊子の例では、CAT ポートとして **COM7** を、ボーレートは TRX 側で設定した値にします。データビット・パリティ・ストップビットは取説に記載内容に合わせます。OK ボタンで設定を保存して画面を閉じます。

2.3 PTT 設定

動作環境設定 ⇒第2 PTT ポート の画面を開く。



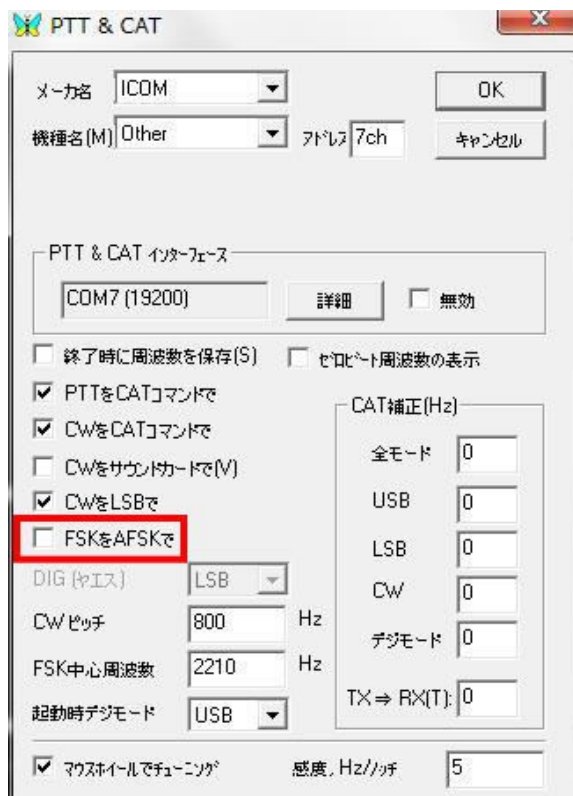
PTT と CW 出力用のシリアルポート(例では **COM8**)を設定し、RTS を PTT にそして DTR を CW に割付けて、OK ボタンで設定を保存して画面を閉じます。

2.4 FSK/AFSK 設定

MixW は RTTY を FSK または AFSK の何れのモードでも運用できます。

2.4.1 FSK モード

動作環境設定 ⇒ CAT/PTT 設定 の画面を開き、「FSK を AFSK で」にチェックが入っていないことを確認。

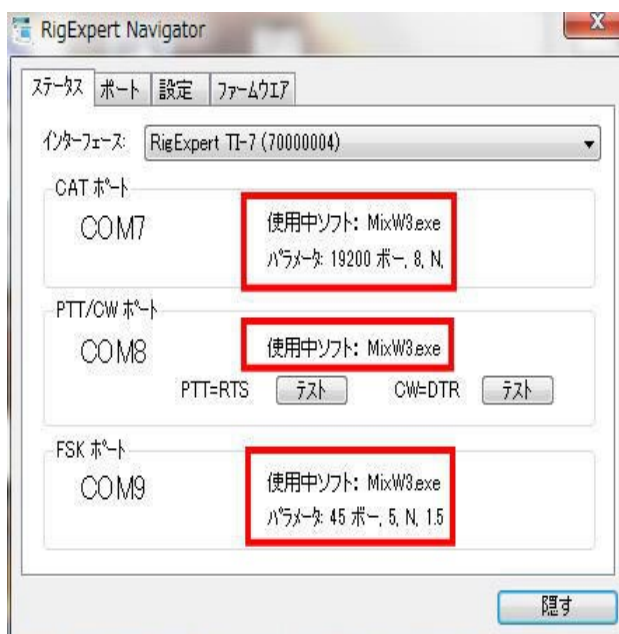


OK ボタンを押して画面を閉じます。次に、動作環境設定 ⇒ FSK ポート ⇒ ポート設定 から次の画面を開く。



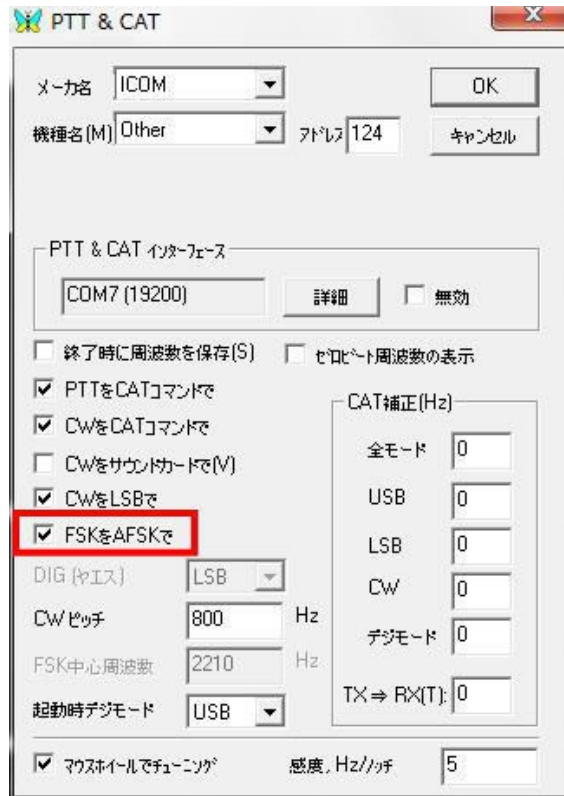
FSK 用のシリアルポート(例では **COM 9**)を設定し、OK ボタンで設定を保存して設定画面を閉じます。

リグエキスパート・ナビゲータを起動し、ステータスタブで各 COM ポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。



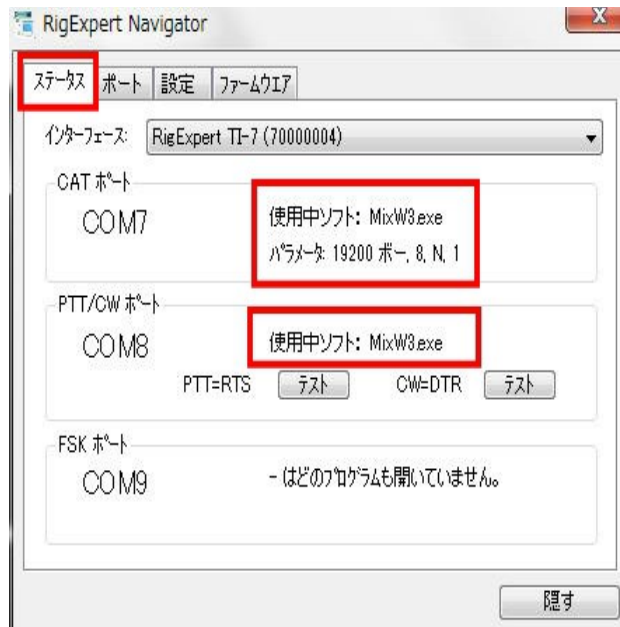
2.4.2 AFSK モード

メニューの動作環境設定 ⇒CAT/PTT 設定 の画面を開き、「FSK を AFSK で」にチェックを入れます。



OK ボタンをして画面を閉じます。

リグエキスパート・ナビゲータを起動し、ステータスタブで各 COM ポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。



3. MMTTY (MMTTY version 1.68A)

3.1 オーディオ設定

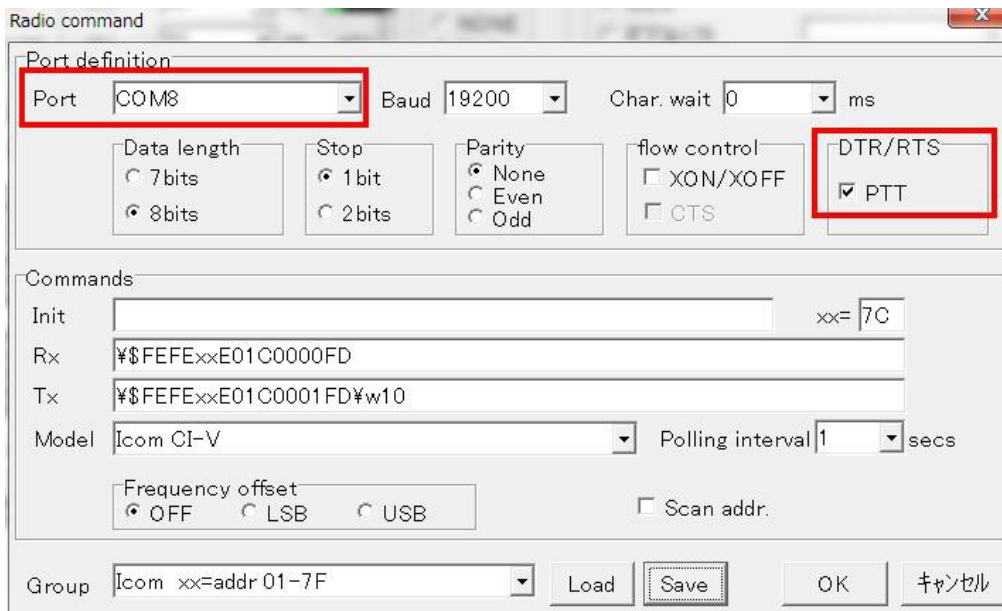
オプション⇒設定,画面⇒SoundCard タブよりオーディオの入出力デバイスの設定を行います。



入出力共に“RigExpert TI-7” を選択します。デバイスの名称違いは1頁の注意を参照のこと。

3.2 PTT 設定

送信タブを開き“Radio command”ボタンを押します。



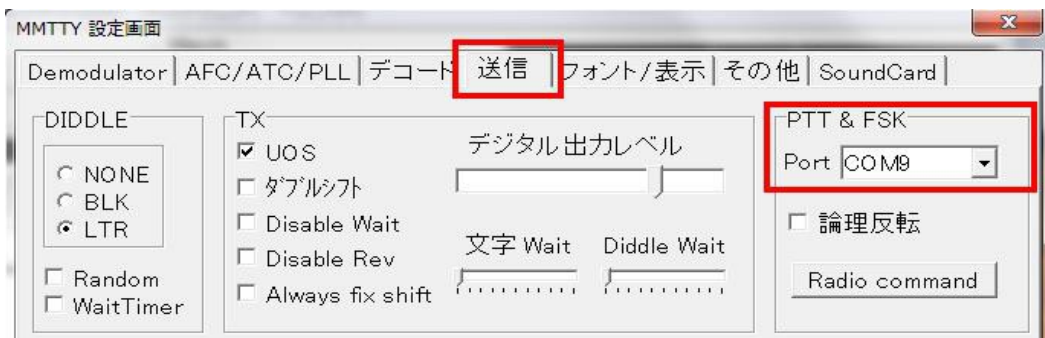
PTT に使うシリアル・ポートを選択 (例では **COM8**) し、PTT ボックスにチェックを入れ他は、お使いの TRX に合わせて設定し、OK ボタンを押して画面を閉じます。

3.3 FSK/AFSK 設定

MMTTY は RTTY を FSK または AFSK の何れのモードでも運用できます。

3.3.1 FSK モード

送信タブを開き、FSK ポートの設定を行います。



FSK に使うシリアル・ポートを選択 (例では COM 9)し、その他のタブを開く。

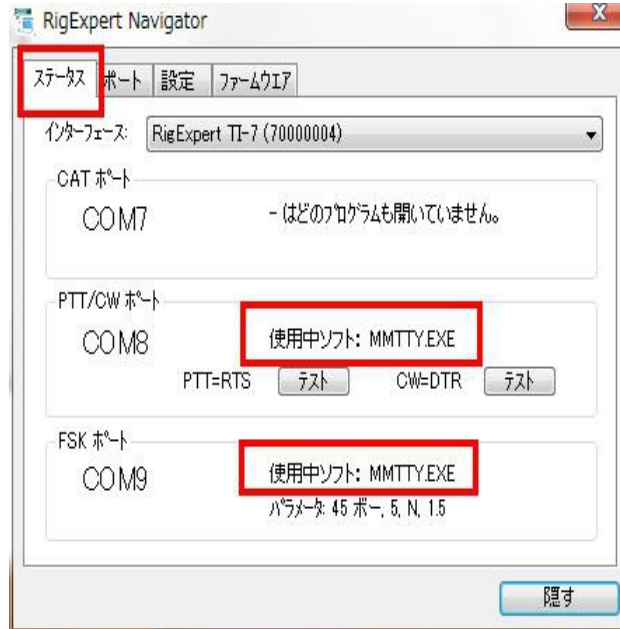


送信ポートで“COM-TxD(FSK)”を選択し、“USB Port”ボタンを押す。



“USB Port Options”で「送信速度の制限」を選択し、OK ボタンで画面を閉じます。
次に“MMTTY 設定画面”で、OK ボタンを押して設定を有効にします。

リグエキスパート・ナビゲータを起動し、ステータスタブで各 COM ポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。



3.3.2 AFSK モード

送信タブの PTT&FSK の Port に NONE 選択します。



その他のタブを開き、”送信ポート”でサウンドを選択します。



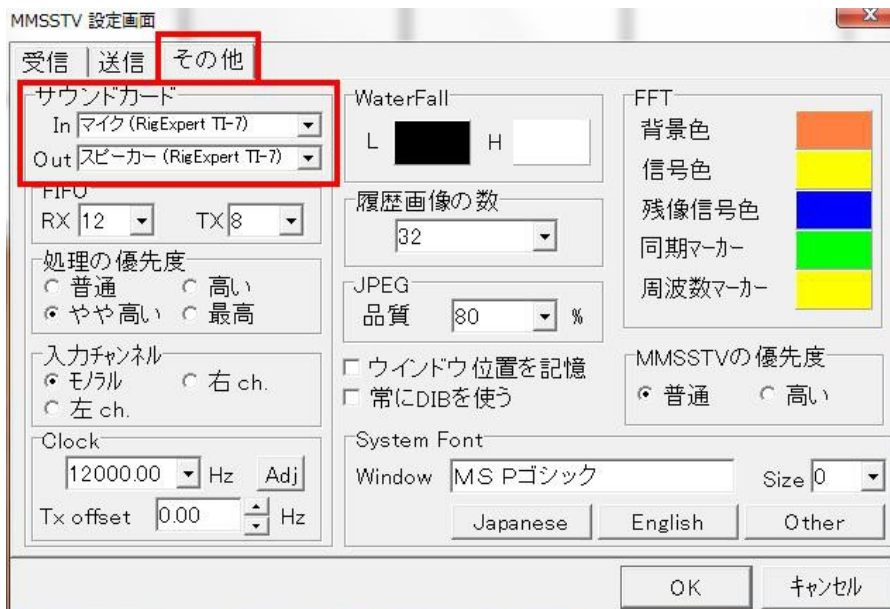
次に“MMTTY 設定画面”で、OK ボタンを押して設定を有効にします。
 リグエキスパート・ナビゲータを起動し、ステータスタブで各 COM ポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。



4. MMSSTV (MMSSTV version 1.13A)

4.1 オーディオ設定

オプション⇒設定,画面⇒その他 タブよりオーディオの入出力デバイスの設定を行います。



入出力共に“RigExpert TI-7”を選択します。デバイスの名称違いは1頁の注意を参照のこと。

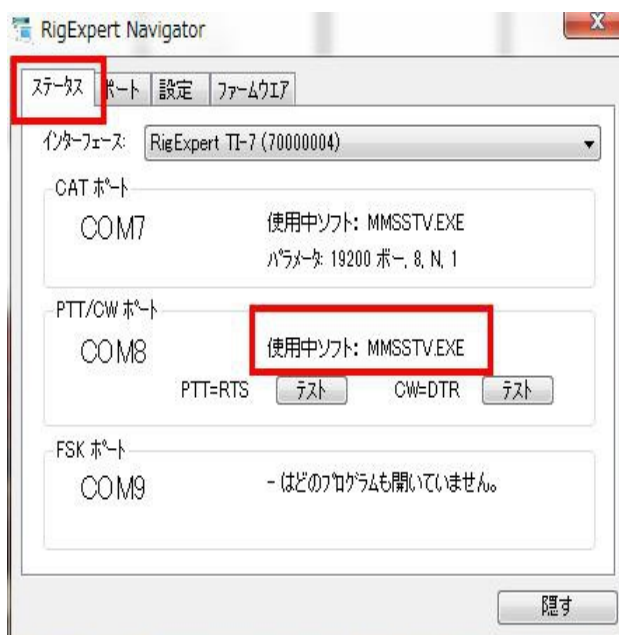
4.2 PTT 設定

送信 タブを選びます。



PTT に使うシリアル・ポートを選択（例では **COM8**）し、占有使用にチェックを入れ、OK ボタンを押して画面を閉じます。

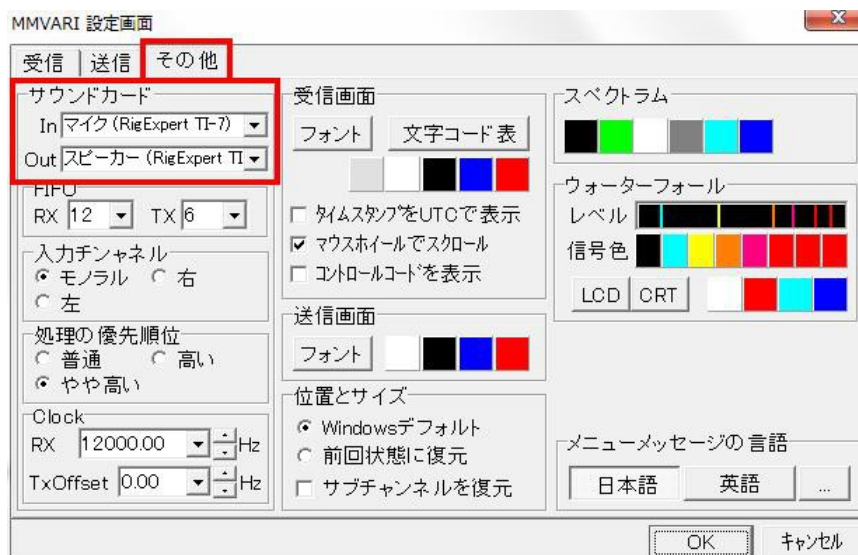
リグエキスパート・ナビゲータを起動し、ステータスタブで各 COM ポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。



5. MMVARI (MMVARI version 0.45A)

5.1 オーディオ設定

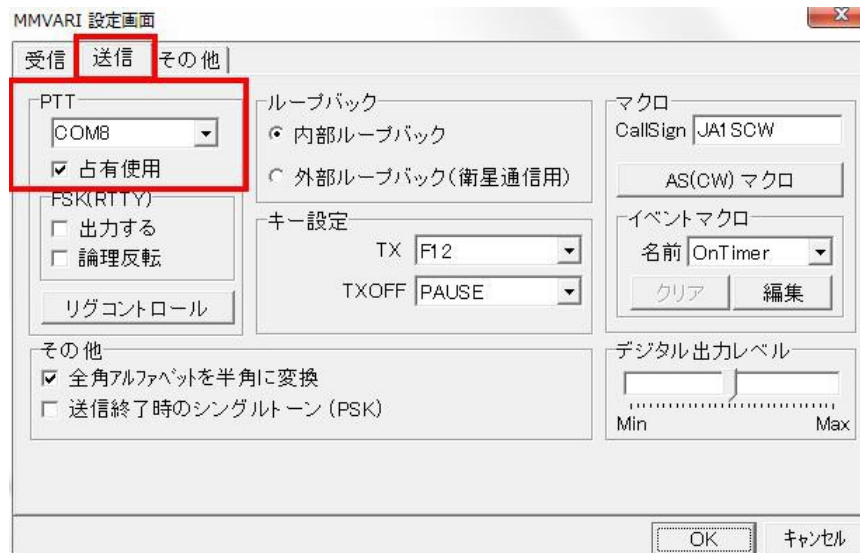
オプション⇒設定,画面⇒その他 タブよりオーディオの入出力デバイスの設定を行います。



入出力共に“RigExpert TI-7”を選択します。デバイスの名称違いは1頁の注意を参照のこと。

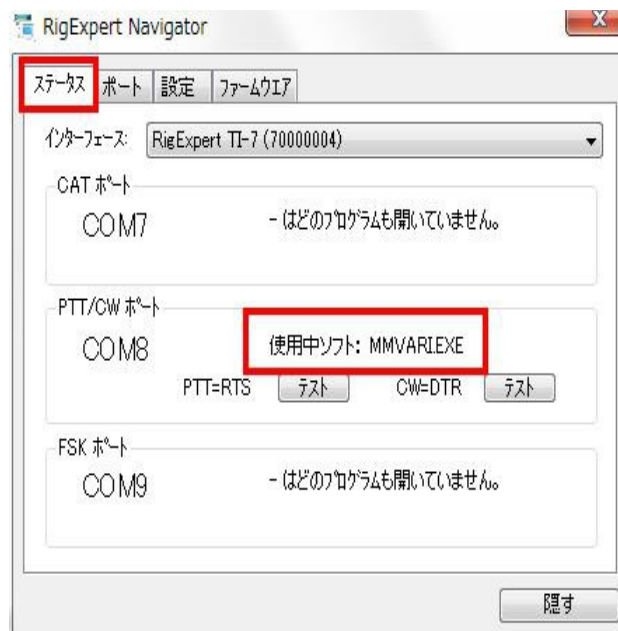
5.2 PTT 設定

送信 タブを選びます。



PTT に使うシリアル・ポートを選択 (例では **COM8**)し、占有使用にチェックを入れ、OK ボタンを押して画面を閉じます。

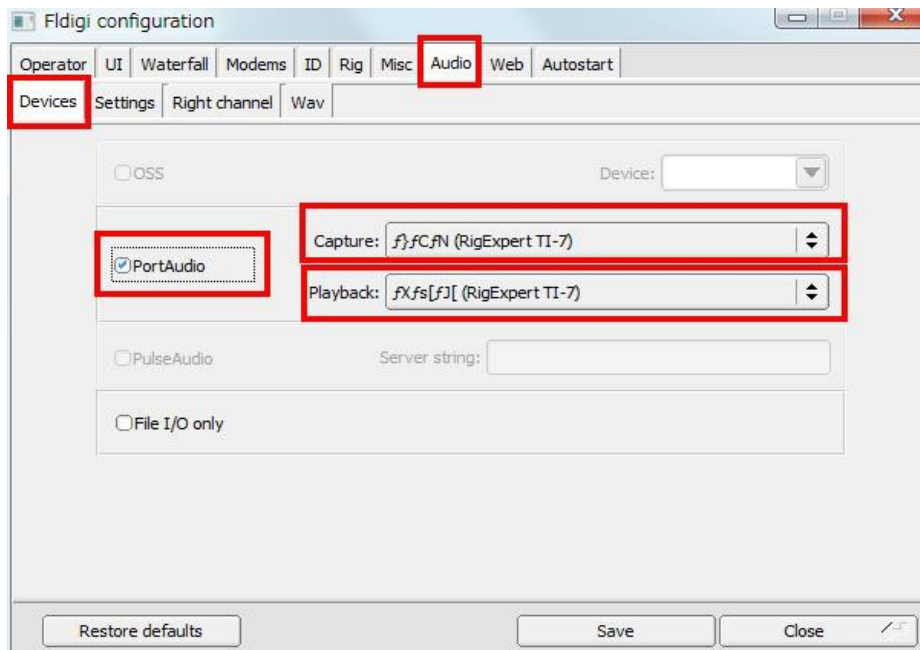
リグエキスパート・ナビゲータを起動し、ステータスタブで各 COM ポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。



6. Fldigi (Fldigi version 3.21.83)

6.1 オーディオ設定

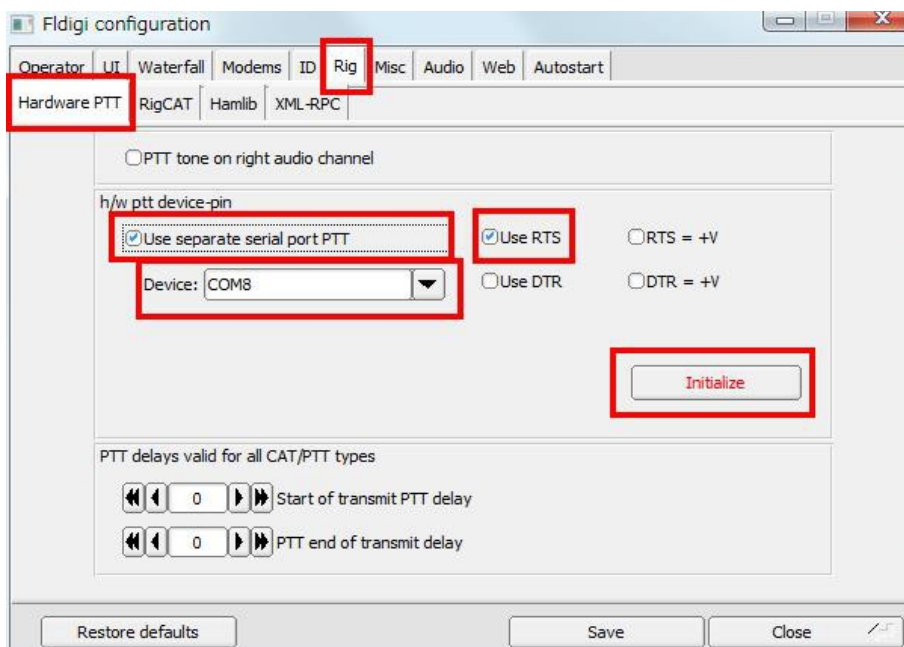
Configure ⇒ Sound Card ⇒ Audio タブから Devices タブを選択。



PortAudio にチェックを入れ、入出力共に“RigExpert TI-7” を選択します。日本語に未対応ソフトなのでマイクとスピーカに相当する部分が文字化けします。デバイスの名称違いは1頁の注意を参照のこと。

6.2 PTT 設定

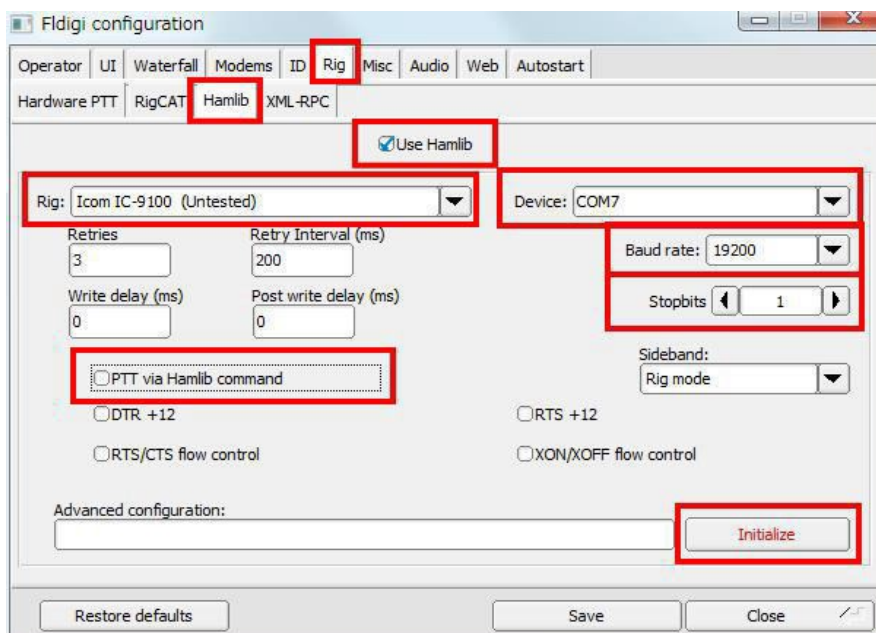
Rig タブと Hardware PTT タブを選択します。



“Use separate serial port PTT” にチェックを入れ、PTT に使うシリアル・ポートを選択 (例では COM8)する。“Use RTS” にもチェックを入れ Initialize ボタンを押すとシリアルポートが開きます。設定を保存するには Save ボタンを押します。

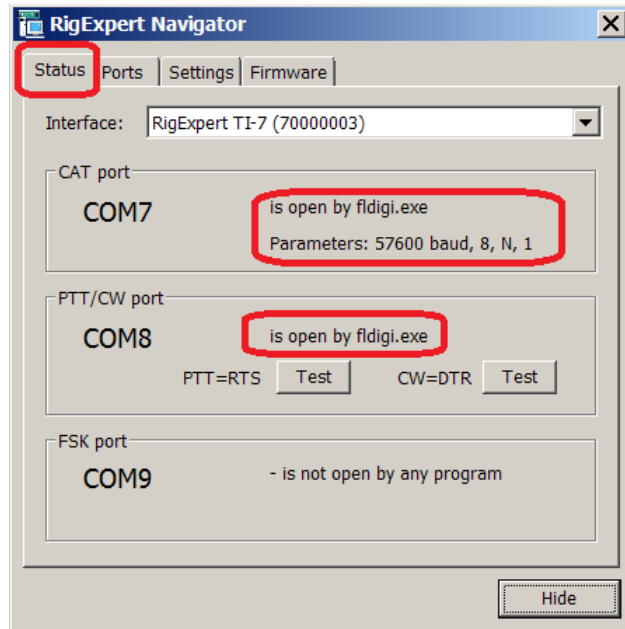
6.3 CAT 設定

Hamlib タブを選択する。



最初に“Use Hamlib”にチェックを入れ、次にお使いの TRX を選択し、“PTT via Hamlib command”のチェックを外します。CAT に使うシリアル・ポートを選択（例では COM7 ）し、TRX 取説に記載のボーレートとストップビットを選択し、Initialize ボタンを押して CAT ポートを開きます。Save ボタンを押して設定を保存します。

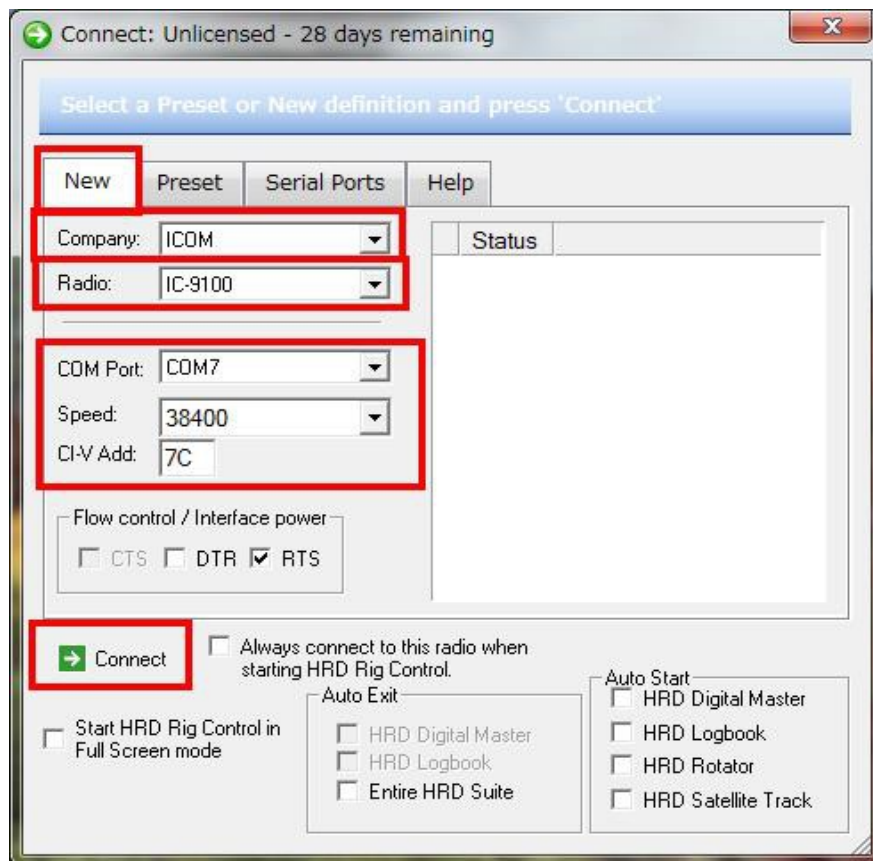
リグエキスパート・ナビゲータを起動し、ステータスタブで各 COM ポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。



7. Ham Radio Deluxe (HRD version 6.2.3.271)

7.1 CAT 設定

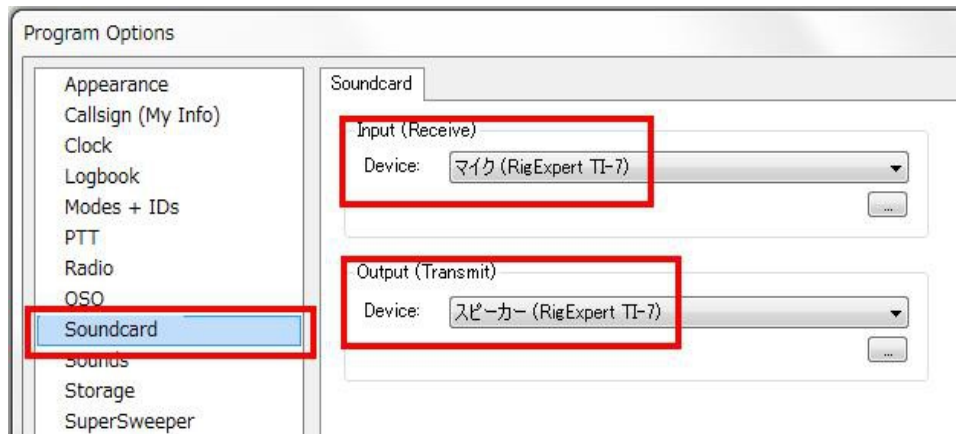
File⇒Connect menu (or press Ctrl-N).より New タブを選択する。



CAT に使うシリアル・ポートを選択（例では **COM7** ）し、TRX 取説に記載のボーレート等を選択し、Connect ボタンを押して HRD と TRX の通信を開始させます。

7.2 オーディオ設定

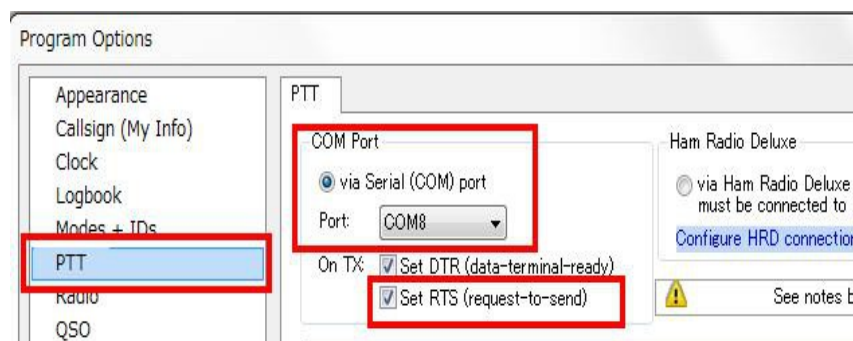
メニューより Digital Master を起動し Tools ⇒ Program options の左側リストより Soundcard を選択します。



入出力共に“RigExpert TI-7” を選択します。デバイスの名称違いは1頁の注意を参照のこと。

7.3 PTT 設定

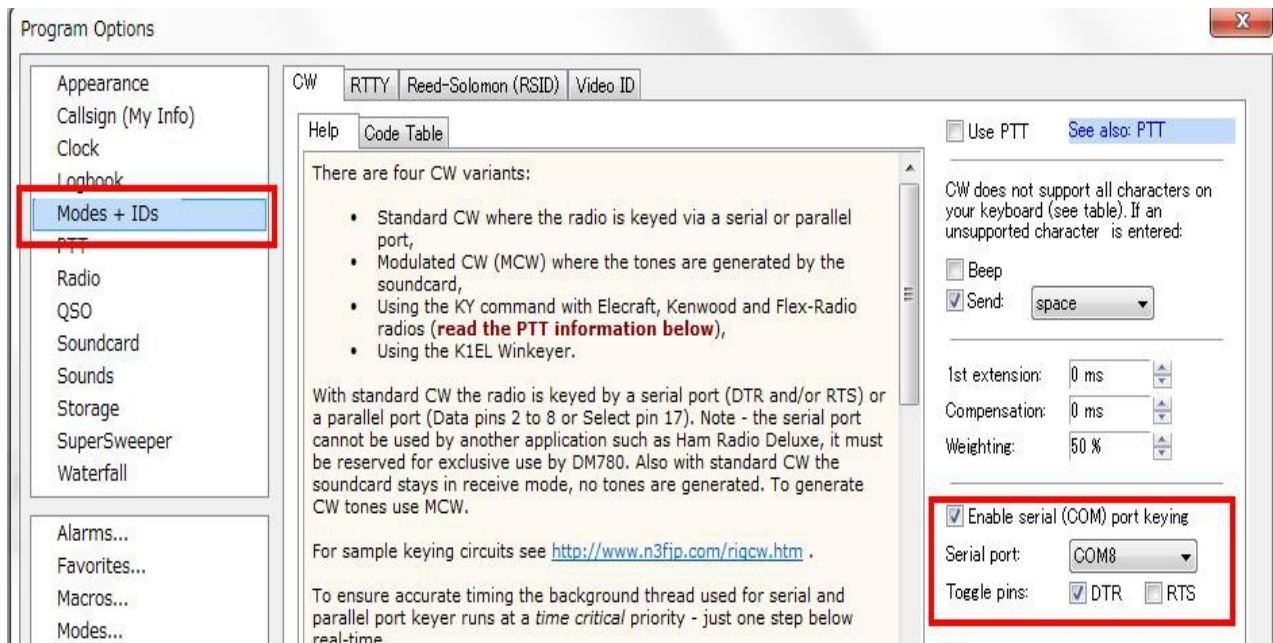
Digital Master のメニューより、Tools ⇒ Program options の左リストより PTT を選択します。



“via Serial (COM) port” のラジオボタンを点灯させ、PTT に使うシリアル・ポートを選択（例では **COM8** ）する。“Set RTS (request to send)”にもチェックを入れる。

7.4 CW 設定

Digital Master のメニューより、Tools ⇒ Program Options の左リストより“Modes + IDs” を選択します。



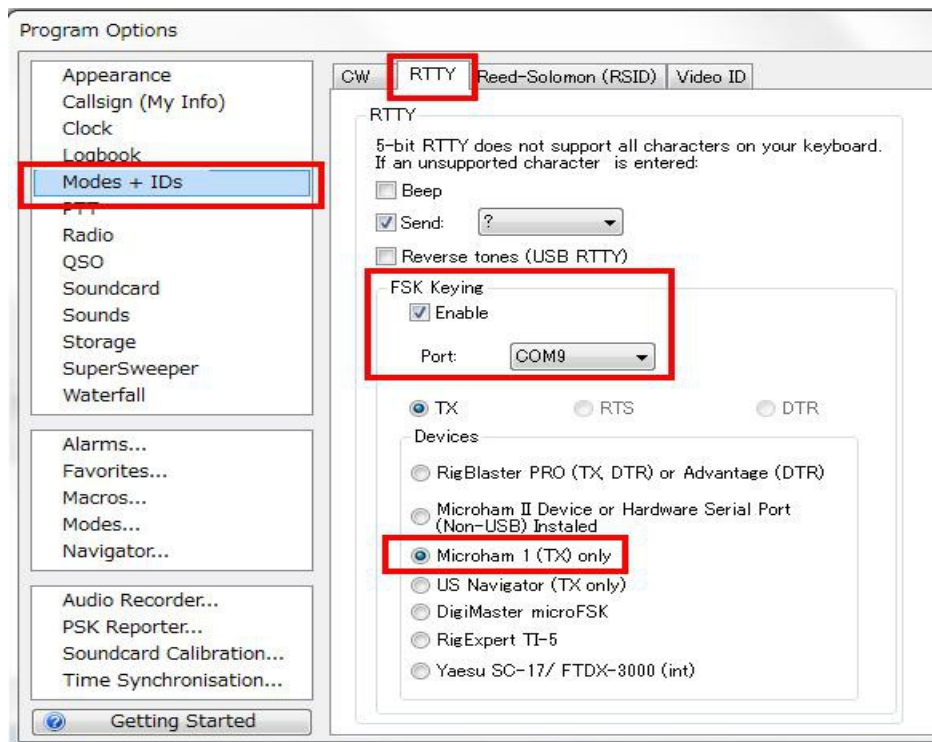
“Enable serial (COM) port keying” にチェックを入れ、CW に使うシリアル・ポートを選択 (例では COM8、PTT ポート同様に)し、“Toggle pins: DTR” にチェックを入れる。

7.5 FSK/AFSK 設定

Digital Master は RTTY を FSK または AFSK の何れのモードでも運用できます。

7.5.1 FSK モード

Digital Master のメニューより、Tools ⇒ Program Options の左リストより“Modes + IDs”を選択し、RTTY タブを選択します。



“FSK Keying”コーナーの Enable にチェックを入れ、FSK に使うシリアル・ポートを選択 (例では COM9)し、“Microham 1 (TX) only” も選択する。

RTTY を FSK モードで運用するには、Digital Master の主画面で“RTTY-45 (FSK)”を選択します。

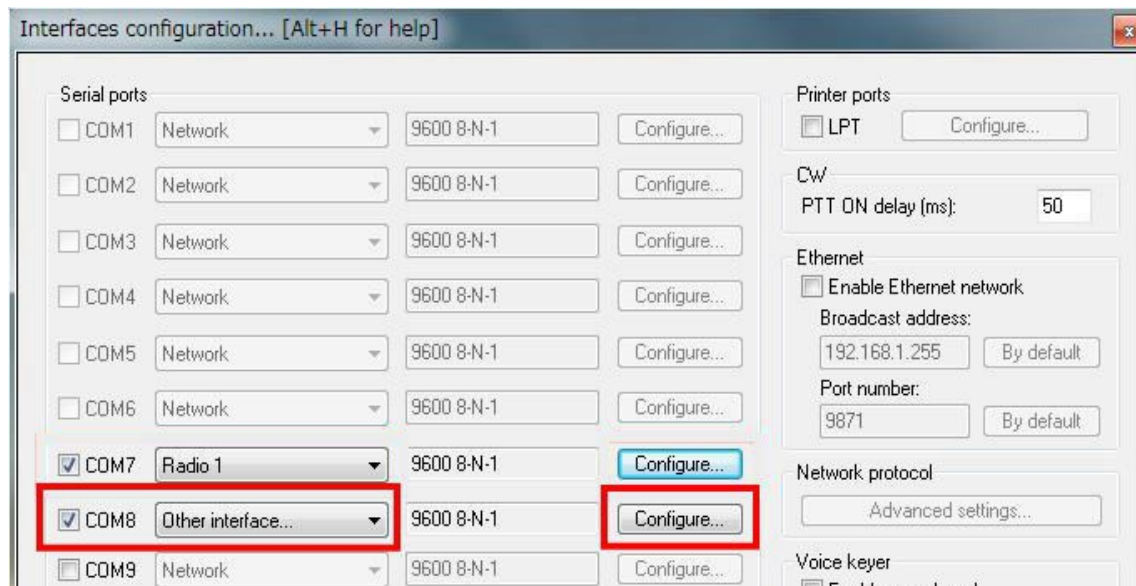
7.5.2 AFSK モード

RTTY を AFSK モードで運用するには、Digital Master の主画面で “RTTY-45 (AFSK)”、“RTTY-50” または“RTTY-75”の何れか を選択します。

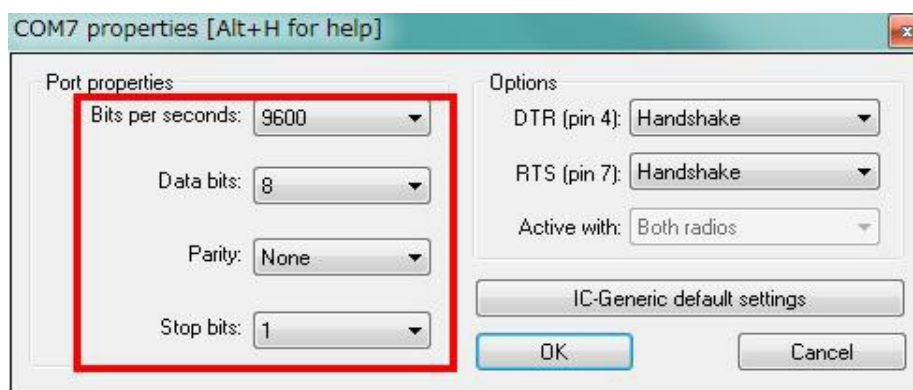
8. WinTest (WinTest version 4.8.0)

8.1 CAT 設定

WinTest のメニューから、Options ⇒ Configure interfaces を開き、



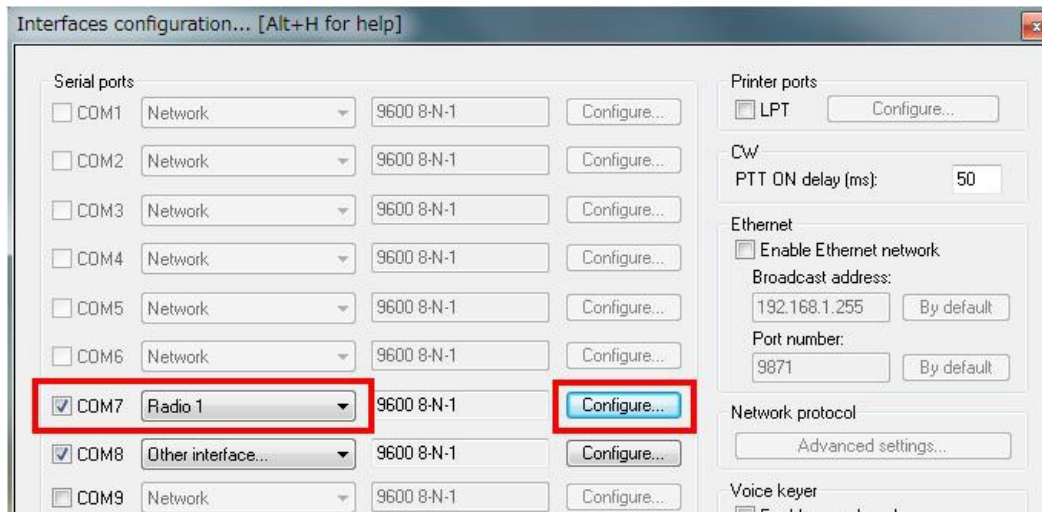
最初に画面左下の“Radio 1”にお使いの TRX を設定し、次に RigExpert TI-7 の CAT ポートに該当する COM 番号(例では COM7)にチェックを入れる。 “Radio 1”を選択し、“Configure”ボタンを押す。



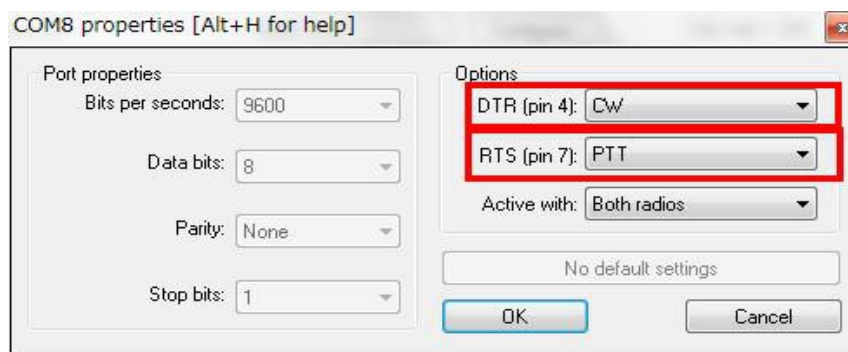
ボーレート他の項目は、TRX の取説に記載の値を引用し、OK ボタンを押します。

8.2 PTT/CW 設定

WinTest のメニューから、Options ⇒ Configure interfaces を開き、

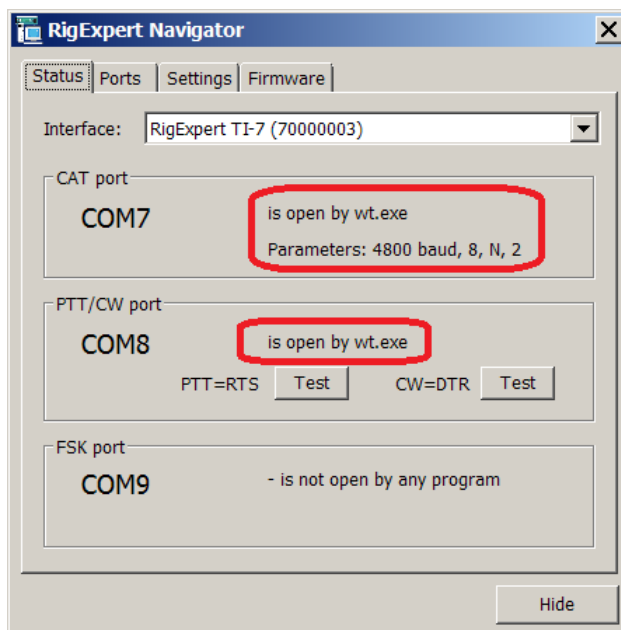


RigExpert TI-7 の PTT/CW ポートに該当する COM 番号(例では **COM8**)にチェックを入れ、“Other interface”を選択し “Configure” ボタンを押す。:



Options コーナーで “DTR (pin 4)” を CW に、“RTS (pin 7)”を PTT に割付、OK ボタンを押す。

リグエキスパート・ナビゲータを起動し、ステータスタブで各 COM ポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。



Copyright © 2014 Rig Expert Ukraine Ltd.

<http://www.rigexpert.com>

RigExpert is a registered trademark of Rig Expert Ukraine Ltd.

RigExpert TI-7 USB Transceiver Interface
is made in Ukraine.



翻訳・作成・印刷
JA1SCW 日下 寛

20-July-2014